

HDL-Z シリーズへデータコピーする

データコピー for Windows 画面で見るマニュアル

データコピー for Windows（以下、データコピー）は、古いNASのデータを新しい弊社製 HDL-Z シリーズにコピーするためのアプリです。

※データコピーは、インストール不要です。そのまま実行できます。

対応 OS

Windows Storage Server 2016

Windows Storage Server 2012 R2

対応機種

HDL-Z シリーズ

※最新情報は、弊社 Web サイト (<http://www.iodata.jp/>) をご確認ください。

INDEX

データコピーとは.....	2
データコピーする.....	3
データコピー結果を確認する.....	6

データコピーとは

データコピーは、古いNASのデータを新しいHDL-Zシリーズに簡単にコピーできます。

環境例

本製品は以下の用途の際に最適です。

古いHDL-Zシリーズから新しいHDL-Zシリーズへのコピー

古いHDL-Zシリーズから、新しいHDL-Zシリーズへのスムーズなコピーができます。



Linux NAS から新しいHDL-Zシリーズへのコピー

Linux NAS（他社製NAS、HDL-XR/XVシリーズ）から新しいHDL-Zシリーズへのスムーズなコピーができます。



様々なコピーに対応

スケジュール実行	データコピーを実行する時刻を指定し、NASへのアクセスの無い時間帯などに実行することができます。
差分コピー	データコピーを実行中にデータの変更があった場合などに、変更のあったファイルのみコピーを実行します。データコピーにかかる時間を短縮できます。
ACLコピー	通常のファイルコピーではACL情報は必ずしもコピーされず、コピーしたユーザーの権限で自動的に設定されてしまいます。ACLコピーを実行すると、古いNASでおこなっていたアクセス制御をそのまま移行できます。

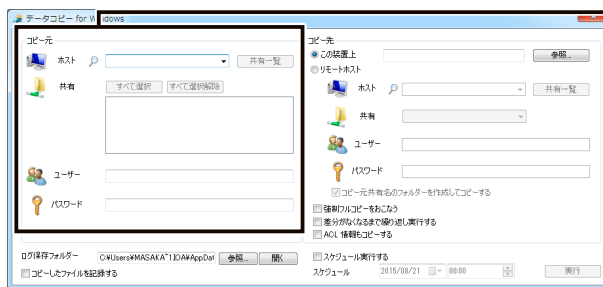
データコピーする

ご注意

- コピー先には、コピー元のファイルをコピーするため十分な空き容量が必要です。
- コピー元とコピー先に同名のファイル・フォルダーが存在する場合、コピー元のファイル・フォルダーで上書きされます。コピー先にのみ存在するファイル・フォルダーは削除されません。
- コピー元やコピー先のフォルダーやファイルを開いている場合は閉じてください。また、コピー元やコピー先の共有フォルダーに対してネットワークドライブの割り当てをしている場合には切断してください。
- コピー元のユーザーにはコピーするすべてのファイルにアクセス可能なユーザーを指定してください。
- データコピーを実行する時刻をスケジュール設定する場合、他のスケジュールと重複しないようにしてください。
- ACL 情報をコピーする場合、データコピー実行前に新しいHDL-Z シリーズをドメインに参加させてください。

1 コピー先の HDL-Z シリーズで、ダウンロードしたファイル「DataCopyTool.exe」を実行する

2



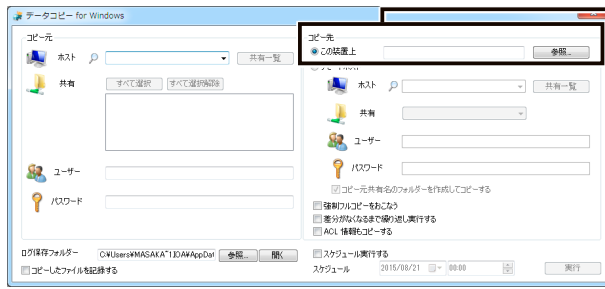
コピー元を設定する

※ 設定内容は下の【コピー元設定内容一覧】をご確認ください。

コピー元設定内容一覧

ホスト		対象機器のホスト名を指定します。(IP アドレスでも設定可能) プルダウンメニューにて、ネットワーク上に存在するホストを一覧表示します。
	[共有一覧]	ホストを直接入力した場合に、ホスト上の共有を一覧表示します。
	虫眼鏡 (🔍)	ホストを検索中に表示されます。
共有		対象機器上の共有を指定します。 指定したホスト上の共有を一覧表示し、データ移行の対象とする共有を選択します。 [すべて選択]、[すべて選択解除] は、リストに表示された共有に対して操作できます。 ※共有フォルダーとして使用できないフォルダーは表示されません。 ※ホストが Windows 以外の場合、隠し共有は表示されません。表示するにはホストを操作し、隠し共有設定を解除してください。
	虫眼鏡 (🔍)	共有を検索中に表示されます。
ユーザー		対象の共有にアクセス可能なユーザー名を入力します。 コピー元に HDL-XP/XV シリーズを指定する場合、「admin」と入力してください。
パスワード		ユーザー名に対応するパスワードを入力します。

3



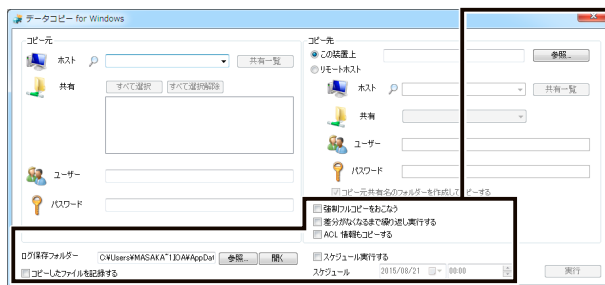
[参照] ボタンをクリックし、コピー先のフォルダーを選択する

※ [リモートホスト] を選択した場合、ネットワーク上の他のホストにコピーすることもできます。
下の【リモートホストを選択した場合の設定内容一覧】をご覧ください。

リモートホストを選択した場合の設定内容一覧

リモート ホスト	ネットワーク上の他のホストにコピーする場合に選択します。 以下の内容も設定します。
ホスト	対象機器のホスト名を指定します。(IP アドレスでも設定可能) プルダウンメニューにて、ネットワーク上に存在するホストを一覧表示します。
[共有一覧]	ホストを直接入力した場合に、ホスト上の共有を一覧表示します。
虫眼鏡 (🔍)	ホストを検索中に表示されます。
共有	対象機器上のコピー先共有を指定します。
虫眼鏡 (🔍)	共有を検索中に表示されます。
ユーザー	対象の共有にアクセス可能なユーザー名を入力します。
パスワード	ユーザー名に対応するパスワードを入力します。
コピー元共有名のフォルダーを作成してコピーする	コピー先フォルダーにコピー元共有と同じ名前前のフォルダーを作成する場合にチェックをつけます。コピー元共有を 1 個選んだ場合のみ無効にできます。(2 個以上選んだ場合は有効になります。)

4



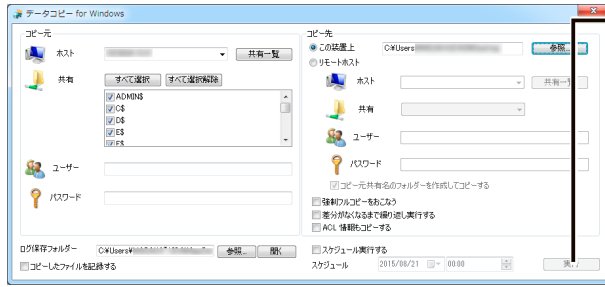
その他の設定をする

※ 設定内容は下の [その他の設定内容一覧] をご確認ください。

その他の設定内容一覧

ログ保存フォルダー	データコピーの結果などの情報を保存する場所を指定します。
コピーしたファイルを記録する	チェックをつけると、コピーに成功したファイルについてもログに記録します。 コピーしたファイル数によってはログサイズが大きくなるため、ご注意ください。
強制フルコピーをおこなう	チェックをつけない場合は、差分コピーとなります。通常はチェックをつけずにご利用ください。 チェックをつけると、コピー先にデータが存在しても強制的にすべてのファイルを上書きコピーします。
差分がなくなるまで繰り返し実行する	チェックをつけると、すべてのファイルが差分なし状態になるまでコピー動作を繰り返します。[強制フルコピーをおこなう]が無効の場合のみ有効に設定できます。
ACL 情報をコピーする	チェックをつけると、コピー元の ACL 情報もコピーします。 ※ドメインアカウントと共通アカウント (Everyone 等) の ACL 情報がコピー対象になります。また、継承された ACL 情報はコピーされません。
スケジュール実行する	データコピーを実行する時刻を設定します。 ※設定した時刻が現在時刻より前の場合は、直ちに実行されます。

5



[実行]をクリック

以上で、データコピーが有効になりました。

コピー元を運用しながら、実行する場合

コピー元の NAS を運用しながらコピーする場合は、以下の設定にして実行します。

- [強制フルコピーをおこなう] を [無効] にする
- [差分がなくなるまで繰り返し実行する] にチェックをつける

コピー完了後の作業について

古い NAS から新しい HDL-Z シリーズに切り替える場合、以下の手順にしたがってください。

- ①古い NAS をネットワークから取り外す
- ②新しい HDL-Z シリーズの初期設定をする
 - ※ HDL-Z シリーズの初期設定については、管理マニュアルをご覧ください。
- ③「データコピー for Windows」を削除する
(切替完了後に、誤ってコピーを実行してしまうことを防ぐため)
 - ※ 「データコピー for Windows」はインストールしないため、そのまま削除できます。

データコピー結果を確認する

[ログ保存フォルダー] で設定したフォルダーに移行結果を記録します。

1 回の実行につき以下の 2 つのファイルが記録されます。

ファイル名	内容
datacopy_(作成日時).log	データコピーの結果が記録されます。
datacopy_(作成日時)_summary.log	各処理ファイル数などの統計情報のみ記録されます。

■ datacopy_(作成日時).log の内容

項目	意味	
強制フルコピー	強制フルコピーの有効 / 無効を表示します。	
開始時刻	データコピーの開始時刻を表示します。	
移行先	移行先のパスを表示します。	
終了時刻	データコピーの終了時刻を表示します。	
処理時間	データコピーの処理時間を表示します。	
結果	完了 / エラー / 中止を表示します。	
移行元	移行元のパスを表示します。	
(結果)※	完了	コピーして正常終了しました。
	スキップ	既存データと差分がないためスキップしました。
	エラー (暗号化)	移行元ファイルデータが暗号化されているためコピーできません。
	エラー (ACL)	データのコピーはできましたが、ACL 情報のコピーに失敗しました。
	エラー (アクセス)	移行元フォルダーへのアクセス権がないためコピーできません。
	エラー	上記以外のエラー要因によりコピーできません。

※ (結果) のうち、エラーのものは「コピーしたファイルを記録する」の設定にかかわらず記録されます。完了のものは設定が有効の場合のみ記録されます。

■ datacopy_(作成日時)_summary.log の内容

項目	意味
結果	完了 / エラー / 中止を表示します。
強制フルコピー	強制フルコピーの有効 / 無効を表示します。
開始時刻	データコピーの開始時刻を表示します。
終了時刻	データコピーの終了時刻を表示します。
処理時間	データコピーの処理時間を表示します。
移行元	移行元のパスを表示します。
移行先	移行先のパスを表示します。
コピーしたファイル数	コピーが成功したファイル数を表示します。
コピーをスキップしたファイル数	差分なしだったファイル数を表示します。
コピーに失敗したファイル数	コピーがエラーとなったファイル数を表示します。
総ファイル数	各ファイル数の合計を表示します。
処理したフォルダー数	処理をエラーなく行ったフォルダー数を表示します。
処理に失敗したフォルダー数	処理がエラーとなったフォルダー数を表示します。
総フォルダー数	各フォルダー数の合計を表示します。

コピー中にコピー元のデータを削除した場合

コピー中にコピー元のファイルの移動や削除をおこなうと、コピーが失敗となる場合があります。

この場合、ファイルの移動や削除をおこなわないようにして、再実行してください。

【マニュアルアンケートはこちら】

よりよいマニュアル作りのため、アンケートにご協力願います。